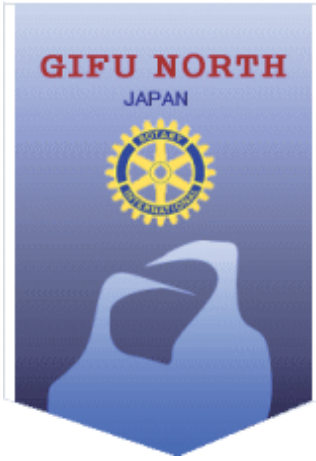


岐阜北週報



5月

月間

<input type="checkbox"/> 題字	国井省二	<input type="checkbox"/> 会長	国井 省二	
<input type="checkbox"/> 例会	毎週水曜	<input type="checkbox"/> 副会長	服部洋一朗	2009-2010
<input type="checkbox"/> 会場	岐阜都ホテル	<input type="checkbox"/> 幹事	波多野光裕	No.1354
		会報委員長	片桐順一郎	10.5.26 発行

前回の記録

第 1353 回例会 5/19 (水)
卓話「身近な歴史を推理する」
卓話者：土田繁寿様
担当：郷・小森

本日の予定

第 1354 回例会 5/26 (水)
バズ例会・クラブフォーラム
担当：会長・幹事

次回の予定

第 1355 回例会 6/2 (水)
卓話：「幕末の志士たち」
担当：川島・永瀬

会長挨拶 【国井 省二 会長】

会員の皆様、こんにちは。

5月の半ばとはいえ、朝晩大変寒い日が続いております。会員の皆様、風邪などひかないよう気を付けてお過ごし下さい。

今期も今日を含めてあと7回の例会となりました。早いものだと実感しております。私自身、会長就任以来、毎月欠かさず先祖のお墓にお参りをしてまいりました。

ここでお墓について少し話させて下さい。「墓地に税金はかかるのか」ということです。土地を持っていると、固定資産税など税金がかかります。しかし、墓地には税金はかかりません。例えば、東京の青山墓地にお墓を作るには、かなりのお金を必要とします。しかし税金はかかりません。それはなぜかというと、墓地の土地は自分のものではないからです。お墓は普通の土地などの購入とは意味が違います。墓地にはお寺にあるものと、分譲の墓地（いわゆる霊園）があります。前者はあくまでも寺院のもの。後者は霊園側のもの。お墓を買うといっても、その土地を所有する権利を買うのではないので税金はかからないのです。

このようなお話をして、本日の会長挨拶とさせていただきます。

本日も宜しくお願い致します。

報告事項

○幹事報告

5月26日 バズ例会
7月25日 IM合同例会
(出欠を閲覧表記入して下さい)

○委員会報告

*若山IM実行委員長談
例会後各関係者会議致します。
*親睦交流委員会
フィナーレ例会参加の件
*次期ゴルフ同好会
次期会員募集（多くの参加を乞）

出席報告

会員数：35名
出席数：33/35
出席率：94.28%
欠席者：2名（出席免除1名 97.14%）
来訪者：岐阜南RC 竹腰 兼寿 様
若松学園 土田 繁寿 様

ニコニコBOX (敬称略)

岐阜南RC 竹腰兼寿 様：
何時も何かとお世話になり有難う御座います。
山口八郎・郷昇・小森保敏：
卓話者 土田様をお迎えして、よろしく。
水川渥：
誕生日のお祝い有難うございます。

卓話

卓話 「身近な歴史を推理する」
 卓話者 児童養護施設 若松学園主任指導員
 土田 繁寿 様

日頃は何かと、貴岐阜北RCにはお世話になり有難う御座います。
 本日はこのような席にお招き賜り有難う御座いました。南泉寺の若松学園が存在している山県市大桑にまつわる身近な歴史についてお話ししようかと思い、資料をお配りいたしましたので、よろしくお願い致します。

歴史から生まれる発想
 (工夫を生み出す考え方の糸口)
 若松学園 家庭専門相談員 土田繁寿

我々は、どこから来てどこへ行こうとしているのでしょうか。歴史から学ぶことは、ロマンがあり大変有意義なことです。中でも既存の概念にとらわれず、推理をするということは、考える習慣が身に付き、子ども達の教育にも役立つと考えられます。そのことはきっと、これからの日本を支える技術力や能力の原点になるに違いありません。

1. 我々の居る所 (美濃)
 - ◎シルクロードの果てに (鉄・紙・織物)
2. 大桑という所
 (本当に幽閉された守護所なのか?)
 - ◎山の位置と神社仏閣の配置について
 (あなたもわたしも渡来人なの?)
 - ◎和尚の嘆き!! (七言絶句の石碑)
 - ◎心頭滅却!!
 (南泉を出でて甲斐の国へ)
 - ◎尊貴に近づかず (大愚和尚)
 - ◎七条の袈裟の旅 (皇女和宮様)

- ◎四国堀と越前堀の謎
 (織田信長の父も掘りに来た?)
- ◎本丸は何処に?
 (最も良い場所、北に高く、南に開け、東に流れ、西に街道がある。)(長良の崇福寺があった洞)
- ◎四国山公園
 (朝廷の支援と本四国と同じ御利益)
- ◎南泉寺所蔵 (仁岫語録)

次回例会のご案内
 第1355回 6月2日(水)
 卓話「幕末の志士たち」
 担当：川島・永瀬会員

会報・広報6月担当 小泉宣昭